

令和6年度社会福祉法人こばと保育園法人事業計画

1. はじめに

昨年、新たな幹部職員体制での保育園運営に移行しました。新型コロナ対応緩和で日常の保育を取り戻しつつあったが、7月の記録的大雨による床上浸水被害。水害復旧工事による猛暑の中での分散、移動保育、クマ出没など経験したことのない様々な困難を幹部職員が先頭に立ち、全職員と多くの支援の中で乗り越えてきました。

子どもの安全確保、不適切な保育が社会問題となり、「もうひとり保育士の増員を」の広がりの中で、75年間放置されていた国の保育士配置基準が改善に動き出しました。

同時に国は、「こども誰でも通園制度(仮称)」実施に向けて動き出しています。

秋田県内においても超少子化の中3歳未満児保育料無償化の市町村が増え、保育園の役割がますます重要となっており、新たな保育機能と環境再整備や継続性が課題となっています。

今日の時代に見合う子どもの安全、安心を問い直し、子どもの育ちの場としての保育園、保育を一層広げていきたい。

2. 基本活動方針

(1)法人活動

- ・ 法人役員一評議員、評議員選任解任委員の改選を進める
- ・ 法人事務局体制づくりを進める
- ・ こばと共同保育所誕生から認可保育園づくり、認可初期ののあゆみをまとめる
- ・ 子どもの文化を楽しむ地域貢献活動を検討していく

(2)保育園経営

- ・ 出生数減少、国の保育行政動向を見通しながら、3~5年程度先を見越した経営課題を検討しながら単年度経営方針を具体化していく
今後の保育園のありよう、事業けて核の具体化
- ・ 働き続け、やりがいのある労働環境づくりと職員処遇、給与改善を進める
保育士配置基準改善、給与改善の国動向、パート職員130万問題等を踏まえ、職員体制、職員配置の見直し、給与体系、事務体制強化を進める
- ・ 子どもの安心、安全、危機管理対応として中期的な修繕や固定資産取得計画を深める
外壁等の大規模修繕の年次計画を検討する

令和6年度 こばと保育園 事業計画

1. 子どもの受け入れと職員体制

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
定員	17	17	19	19	19	19	110
R6・4月	4	19	22	21	22	21	109
R7・3月	18	20	22	21	22	21	124
R6年度延数	127	237	264	252	264	252	1396

*R6年度：3歳児 1名 5歳児 1名 募集継続

*受け入れ枠の調整を柔軟に検討する

	保育士総数	常勤保育士	パート保育士
R5.4月	24	17	6
R6.3月	24	17	7
R6.4月	22	16	6

<職員動向>

R5年度動向	保育士1名	【こばと→みつば】
	保育士1名	【みつば→こばと】
	アルバイト	5月採用(学生アルバイト)
	保育士1名	9/1 採用(パート保育士)
	保育士1名	12/31 退職
	保育士1名	3/31 退職(保育士)
	保育士1名	3/31 退職(保育士)
	調理員1名	3/31 退職(調理パート)

R6年度動向	保育士1名	4月採用(保育士)新卒
	調理員1名	4月採用(調理パート)
	保育士1名	【こばと→みつば】
	保育士1名	【みつば→こばと】

2. 運営方針

(1) チームでの対応を再確認

- ・全職員で役割や係活動を分担し、企画運営に携わる(園内研修企画委員等)業務継続
- ・リーダー育成研修の位置づけ
- ・行動目標や互いを尊重し合える関係づくりの構築
- ・保育を語り合い、職員みんなで保育・子育てを支える職場づくり
- ・職員の育成と職員研修の充実(研修計画を作成)
- ・職員の健康管理とメンタルヘルス対策に関する取り組みを開始

(2) 子どもの笑顔、笑い声の広がる保育を進める

- ・保育者自身が楽しんであそび、子ども達の遊びを広げる
- ・お散歩、園庭での砂遊びなど、自然に触れる戸外遊びの継続
- ・保育と給食が協力連携を強め、楽しく意欲的に食べる食事、食育を進める
- ・「かまどでご飯」は役割分担で実施
- ・全身を使った遊び(リズム・泥んこ遊び)表現活動へとつなげていく

(3) 健康保険・安全危機管理能力とその対応力を高める

- ・気になる子どもの発達を見つめ、個別に専門機関や小学校と連携していく
(年2回の健康診断時に子どもの発達・養育環境について学んでいく)
- ・除去食の誤食や与薬の間違いがないように、日々複数の目と耳で確認していく

(4) 保護者との「共育て」を進める

- ・連絡ノート、クラスだより、懇談会、保育参観などを実施し保護者との「共に育ちあう」関係づくりを進める
- ・療育センターなどの受診時、クラス担任も同行し具体的な指導方法を保護者と一緒に学ぶ
- ・子育て支援として地域の親子に保育園を開放する「ほいくのつどい」と一時保育を継続する
- ・新規事業として、「子育て相談日」を第3水曜日に予約制として設ける

(5) 環境

- ・外壁工事・防犯カメラ・不審者対応(警備保障など)計画的に進めていく
- ・水害復旧 保育室のロッカーの購入整備等

(6) 自然災害に対応するためのチームワーク

- ・月1回の避難訓練の実施に伴い、現実的に何をどうするかを話し合う事を定着させる
- ・熊情報にどう対応していくかを検討

令和6年度みつば保育園事業計画書

1. 子どもの受け入れと職員体制

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
定員	7	14		19			40
R6年4月	1	7	8	7	7	7	37
R7年3月	6	7	8	7	7	7	42
R6年度延数	33	76	96	84	84	84	457

	保育士総数	常勤保育士	パート（常勤換算）
R5年4月	13	9	4 (2.62)
R6年3月	14	9	5 (3.25)
R6年4月	13	9	4 (2.62)

<職員動向>

R5年度動向	柳澤 祈月	4月採用（新卒栄養士）
	佐藤 早苗	【みつば⇒こばと】
	斉藤 彩	【こばと⇒みつば】
	佐藤 美咲	4/24 採用（パート保育士）
	小林 望美	10/7 採用（学生アルバイト）
	山崎 牧子	12/21 採用（用務員）
	相原 映	3/28 退職（パート保育士）

R6年度動向	三浦 美砂希	【みつば⇒こばと】
	花田 美奈	【こばと⇒みつば】

2. 運営方針

(1) 子どもと保育者の笑顔、笑い声の広がる保育を進める。

- ① 保育者と子ども、子ども同士のふれあい遊びの中で、安心感と共感関係を広げる。
- ② 子どもの興味・関心・発想を生かし、体験を通して好奇心、探求心、対話力を育む。
- ③ 障がい児を含む全ての子どもたちが共に育ち合う多様な関係性を豊かにし、難しいことへの挑戦する楽しさと自信を育む。
- ④ 保育と給食が連携して生きる力の基礎を広げる食育を進める。

(2) 健康保健、安全危機管理能力とその対応力を高める。

感染症対応、危機管理対応等について2園で共有しながら進めていく。

- ① 全職員が病気、感染症、食物アレルギー等に的確な対応ができるように、絶えず小児保健・

医学の最新動向を学び、必要に応じマニュアルを更新し、情報を共有する。

- ② かみつき、取り合い、ケガ、事故への見守り、対応能力の向上を図る。
- ③ 避難訓練、大規模災害、防犯、防災、事故など危機管理対応を強化する。

(3) 保護者との「共育て」「共育ち」を進める。

- ① 保護者の不安を受け止め、安心できる関係を心掛ける。
- ② 子どもの育ち合う姿を丁寧に伝え合う。
- ③ 「共育て」「共育ち」の伝統を受け継ぎ、共に考え合う姿勢を大切にする。
- ④ 地域の子育て支援への参加・連携。
 - ・ 保育園開放（みつばのひろば）と子育て相談日を設け、地域の子育てに寄り添う。
 - ・ 中央地域子育てネットワークへ参加し、地域と連携していく。
 - ・ 保育実習生、高校生等のボランティアの受け入れを大事にし、保育者への希望を膨らませる機会、人と人が共に関わり合う機会とする。

(4) 保育を語り合い、職員みんなで保育・子育てを支える職場づくり。

- ① 働きがいのある職場づくり、保育を語り合う職場づくり。
- ② 職員育成と職員研修の充実。
 - ・ いろいろな家庭をサポートする力を高める。
 - ・ 園内研修—自分たちで研修を作っていく。正職員研修、2園合同研修等々。
 - ・ 園外研修—8分野のキャリアアップ研修等計画的な実施。
- ③ 職員健康管理、メンタルヘルス、親睦の取り組みを進める。
 - ・ 職員のメンタルヘルス対策の研修実施。

(5) 職員の役割分担業務の拡大

行事や研修等、職員が係を持って企画・運営に携わり、自発的に学ぶ機会をもつ。

(6) 保育園の環境整備を計画的に進める。

- ④ 自然をより生かした園庭の整備や、子どもと一緒に畑作りをすすめる。

(7) 保育園の歩みと今後への取り組み。

- ① 保育園が開園し14年目に入る。10周年はコロナ禍で特別なことができないままに過ぎてしまったが、15周年に向けてこれまでみつば保育園に携わってくれた方や卒園児、今在籍する園児や保護者の方職員に向けて記念誌を発行（R7年度）する計画を進めたい。
- ② これまでのみつばの保育を振り返り、さらにこれからも保護者とともに歩み、地域に根差した園でありたいという気持ちを込めた子育てパンフ等の発行。地域の方にも配布するなど、いずれは保育園が地域の安心の拠点となるような取り組みも検討する。
- ③ 少子化により園児数も減少し定員割れ等の兆しが見えてくる中で、今後は国の事業の動向を把握しながら受入れの幅を広げていきたい。